

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371100716		
法人名	株式会社フレンズハウス		
事業所名	グループホーム フレンズハウス七番町 1階		
所在地	愛知県名古屋市港区七番町五丁目12番地		
自己評価作成日	平成22年10月15日	評価結果市町村受理日	平成24年4月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ケア・ウィル		
所在地	愛知県名古屋市中村区椿町21-2 第2太閤ビルディング9階		
訪問調査日	平成24年3月2日	評価確定日	平成24年4月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日の生活の中で利用者様が役割を持っていたき、自立支援を目指しております。利用者様との何気ない日々の会話の中からその方々のニーズに添えるよう、介護計画については職員全員で話し合い、支援していくよう心がけております。七番町はデイサービスと併設しているため、季節行事など合同で実施し交流を深めております。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の理念である「自分にきびしく、相手にやさしく」「家庭的なぬくもりの中で笑顔に満ちたホーム」に、職員で考えた地域の理念「地域に根を張る七番町、みんなが集う憩いの場」を加え、申し送り時に唱和し意識づけをしている。職員は入居者が不快な思いをしないで、安全で楽しく暮らせるよう笑顔を心がけ、理念に沿ったケアを実践している。ホームはデイサービスを併設し、ドア一つで行き来ができる。入居者の希望により広いお風呂に入りたい時はデイサービスのお風呂を利用し、デイサービスの利用者が個浴に入りたい時はホームのお風呂を利用している。また、フラダンスや日本舞踊、ハーモニカ演奏などの慰問がある時は、一緒に参加し交流している。ホームでは買い物ツアー、喫茶ツアー、外出ツアーと称し、入居者と外出する機会を多く作っている。また、たこ焼きやホットケーキなど一緒におやつを作ったり、屋上でお茶会を開き抹茶を点てるなど、職員は入居者に楽しんでもらえるよう様々な企画を考え支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目 :23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目 :9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目 :18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目 :2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目 :38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目 :4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目 :36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目 :11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目 :49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目 :30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目 :28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域とのふれあい、かかわりを大切にして積極的に取り組んでいる。事業所理念を掲示し、朗読して共有している。	法人の理念と職員が考えた地域の理念があり、申し送り時に唱和している。入居者、家族に対する態度について、「自分にきびしく、相手にやさしく」の理念を実践している。職員は入居者が安全に楽しく過ごしてもらうよう、理念を念頭に支援している。また、笑顔のある家庭的なホームを目指している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加や散歩時の挨拶、フレンズニュースの回覧などを行ない交流している。	町内会に加入し、回覧板を通して地域の情報を得たり、ホームから行事予定を記載した「フレンズニュース」を毎月回覧してもらっている。地域の運動会や盆踊り、秋祭りなど行事に参加し、地域の方と交流している。中学生の体験学習や合唱部の訪問があり、子ども達とのふれあいを楽しんでいる。また、フラダンス、ハーモニカ演奏などボランティアの慰問もあり、入居者の楽しみになっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に施設訪問などして頂き、理解を深めて頂いている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、町内の民生委員の方に参加して頂き、地域の行事案内・地域の方の相談・ホームの状況報告などを行っている。	入居者、町内会副会長、民生委員、福祉事業関係者の参加を得て、偶数月に開催している。4月の会議には、いきいき支援センター所長の参加があった。会議ではホームの状況報告(入居者状況、職員体制、行事、職員研修)を行い、メンバーから意見や情報提供などを受けて、サービスの質の向上に活かしている。参加している入居者から「楽しかったよ」との声もある。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	港区事業者連絡会に入会して、担当者と話し合う機会を設けている。また、区役所の保護係との連絡を取り、状況説明をしている。	区役所にはケアマネジャーが認定の更新で出向き、その際に情報を得ている。また、管理者は保護係と入居者の報告や相談を行っている。実施指導の時に相談することもある。名古屋市職員研修会に職員が交代で参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加し、またマニュアルに従い職員は身体拘束を行わないよう理解しているが、職員がいないのを確認し、玄関より出て行かれる入居者様が見える為、安全確保のため玄関を施錠している。	「身体拘束廃止に関する指針」があり、契約時に説明している。以前家族から「車いすからずり落ちるので、ベルトをしてほしい」と要望があり、同意書を交わし経過報告をしながら実施したとがあるが、現在は行っていない。また、玄関も現在施錠されておらず、自由な暮らしを支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者および職員全員が高齢者虐待防止関連法を学び理解し、事業所内にて虐待行為が見過ごされないようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の中にも利用されている方がみえるので、その都度説明をし、理解・活用の支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の内容は契約時に全て読み上げ、疑問点などはその場で説明させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様は直接、管理者や職員に意見・要望を伝えられることが多い。 法人としては、年1回家族会を開催しているが、今回は予定した時期に、体調を崩される方が多く開催出来ていない。	家族は年1回の法人全体で行う家族会で意見や要望を言う機会があるが、ほとんどの家族は面会時に管理者や職員に話をしている。意見や苦情などはノートに記入し、職員で話し合う運営に反映している。家族から口腔ケアの時に義歯の間違えがあると意見があり管理方法を変更した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回、人事考課及び面談を行い、法人・管理者に対して提案などを訴える機会を設け、反映させている。	職員は管理者との人事考課時やフロア会議、申し送りなどで意見や提案をしている。管理者は普段から「何かあったら溜め込まないで言うように」と話している。また、職員の表情などを見て悩んでいる様子があれば声をかけている。職員の気づきから牛乳パックで足置き台を作り、入居者の足のむくみ予防に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス規程により、職員が今後の目標をもって、また向上心をもって勤めることができるよう定めている。また36協定を締結し、なるべく残業をしないよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時、日中16時間・夜勤8時間の現場研修を行なっている。また、年2回自己評価の機会を設け、レベルアップにつなげている。外部研修にも交代で参加し、研修で得た情報を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に一度の事業者会の会合に参加し情報交換・交流を行ない、向上を目指している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談やアセスメントをしっかり行ない、困っていることや不安に思っていることなどを聞き取りし話し合い、信頼関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の声をしっかり受け止め、その場で話し合い、要望などは現場にも報告し、取り入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様の要望はケアプランにも取り入れ、改善に向け相談し連携をとり、信頼関係につなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の得意分野は色々と教えて頂きながら、利用者と職員が助け合って生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の訪問時には情報交換をするなどして、ご家族様と共に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様がずっと通っていた美容院や喫茶店などがある場合は、ご家族様に協力して頂くなどして継続的な交流を支援し、馴染みの場所・人との関係が途切れないように努めている。	家族の協力を得て昔から通っている美容院に行き、パーマや毛染めをしている方や墓参りに出かける方など、一人ひとりの生活習慣を大切にしている。近所の友人が訪ねて来て、楽しくおしゃべりをしたり、家族に年賀状を出すなど、今までの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ティータイム・散歩など、共に楽しく過ごす時間を増やし、関わり合いを深めるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新しく変わられた施設との連携を持ち、今までの生活が出来る限り持続できるように相談や必要に応じた情報提供を行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様一人ひとりの意向を聞き、それに近づけるように努力している。困難な時は、ご家族様の意見を聞くなどしている。	日々の関わりの中で職員は入居者一人ひとりの思いや意向を聞き、把握するよう努めている。把握が困難な場合は、普段の様子から「こうしたら笑顔になった」など表情から汲み取り、本人の視点に立った支援を行っている。訪問時には、入居者がソファに座り、「私時代劇が大好きなの」とテレビを観ながら教えてくれた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族様よりバックグラウンドの提出をお願いして、生活歴を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの1日の様子などを記録し残している。また、申し送りなどで職員全員が現状を把握出来るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状と介護計画にズレがないように、モニタリングやカンファレンスを行ない変化に応じて変更している。	職員は介護計画ニーズごとの「ケアプランチェック表」を毎日記入している。フロア会議で入居者の様子などを話し合っており、職員の意見や本人、家族の意向を踏まえた介護計画を作成している。3カ月でケアチェック表の見直しを行い、職員と状況が改善されているかを話し合い、現状に即した介護計画になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルの記録・水分摂取量や排泄など、身体の状態は勤務の前に確認し、把握・共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様のニーズに対してその都度の対応を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員の方と意見交換・情報共有している。 また、地域のお店などを利用して地域に溶け込めるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望があれば、かかりつけ医を主治医として頂いている。協力医療機関以外の受診は基本的にご家族様に行なって頂いている。 受診時の情報などは、ご家族様より報告を受け、協力医に報告し、情報の共有とご利用者様の健康状態の把握に努めている。	入居者のほとんどが協力医をかかりつけ医とし、整形外科、眼科の通院は家族が行い、受診後は家族から情報を聞いている。協力医の往診は月2回行われ、希望者は週3回、訪問リハビリを受けている。訪問歯科医による治療や訪問看護師による健康管理も行われ、24時間対応に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、訪問看護師がみえ、情報共有・連携をしている。 往診の医師とのとの連携も出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医師・看護師と情報を共有し対応可能な段階で退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様と話し合い、意向にそえるように医師と連携をとり、指導の上、可能な限り支援出来るように努めている。	入居時、家族に重度化における医療、サービス提供内容に関する指針書により重度化や終末期に向けた方針を説明し、同意書もらっている。看取りについては、家族と医師、職員が話し合い、ホームで対応可能な範囲内のできる限りの支援に努め、緊急の場合は医療機関への搬送を行い、ホスピスや特別養護老人ホーム等の施設との連携支援にも努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜勤時の緊急対応については、会社のマニュアルを整備し、対応出来るように努めている。管理者が到着するまでの対応は勉強済み。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回、夜間帯を想定した訓練を含めて避難訓練を行なっている。5月には、港消防署、地域の方にも参加して頂き、指導を受けながら訓練をおこなった。非常用食料品などは、定期的に期限を確認し保管している。	防災会議に基づき、入居者と職員が参加して夜間を想定した避難訓練や消火訓練を定期的実施している。地域の方の参加と見守りの中で、AEDの使い方や消火器の使い方の訓練を実施した。水、食料、備品など備蓄品の準備もされている。休日、夜間の防火管理体制も整えられ、消防署長から表彰状を頂いている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様一人ひとりの気持ちを大切に考え、さりげないケアを心がけている。	日常の介護の中で常に笑顔で一人ひとりへの公平な声かけを行い、安全に楽しく過ごしていただけるよう配慮している。入居者の思いをしっかりと傾聴し、不愉快な思いを入居者がしないよう、声かけに気をつけている。失禁時にはさりげない声かけと誘導を行い、居室に入る時はノックをする等、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	必ず意志を確認し、職員の押し付け行為にならないよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物・屋上での洗濯物の取り込みなど、個別対応を増やしその人らしい生活をして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度、訪問理容を利用し、常に清潔を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け・配膳・片付けなどを職員と共に行ない、楽しい食事になるように努めている。 買い物も一緒に行き、食べたい物を聞き・購入するなど、意欲を高めている。	入居者の希望を聞いて献立に取り入れており、味や色どりを工夫した食事を提供できるよう努めている。入居者の身体状況により、食事形態を変え、嚥下機能の低下に配慮している。毎月24日は寿司の日となっており、入居者の楽しみになっている。リビングに設置したボードには入居者の手伝い表があり、その日の調理の手伝いと盛り付け係、後片付け係の名前が記入されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック・食事チェックなど個別に把握し、職員が共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけ・見守りを行ない、自分で出来る所まではしっかり行なって頂き、出来ない所は職員が行なうようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表などを使用し、個々の排尿感覚に合わせて声かけ・トイレ誘導し、自立に向けて支援している。	排泄チェック表により入居者に合わせてトイレ誘導を行っている。声かけすることにより、時間がかかっても自立での排泄が可能な方もいることから、一人ひとりの排泄パターンを把握し、自立に向け支援している。失禁時には他の入居者に気づかれぬよう対応している。居室にポータブルトイレを置いている入居者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い野菜を毎日多く摂取して頂けるように提供している。 ティータイムには牛乳を飲んで頂くなど水分補給も心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に応じて入浴して頂けるように順番をずらすなどして、入浴日を増やせるよう工夫している。	入浴は週2～3回、午後1時～3時30分頃までに個浴の入浴支援が行われている。冬場などは脱衣場を温かくし温度差がないよう配慮している。石鹸やシャンプー等は個人の物を使用し、季節に合わせ柚子湯などを楽しんでいる。希望があれば毎日の入浴にも対応できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はレクリエーション・会話・散歩など取り入れ、活動的に過ごして頂き生活リズムを整えている。その他は自由に休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に服薬ファイルを作成・整理し、内容を把握し、医師・看護師・薬局との連携を図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの好きなことをなるべく活かせるように役割を増やし、生きがいを持って頂けるように配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出などの行事計画を立て、出かける機会を増やすよう心がけている。ご家族様にもご協力いただき、希望に添えるよう努めている。	気候の良い時期は日常的に散歩に出かけている。毎月の行事の中で外出レクリエーションが計画され、1月の初詣から喫茶、買い物ツアー、花見、東山動物園散策、外食ツアー等、多くの外出支援が行われ、入居者の家族から喜びの声を頂いている。年に数回、一泊旅行があり、希望される入居者の楽しみとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は、事務所にて、管理しているが、入居者様のご希望により、おこずかい程度の現金を、自己管理できる方のみ持つて頂いている。(ご家族様の了解済み)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には事務所の電話を使用して頂いている。また、年末には一人ひとり年賀状の作成を行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は皆様が使いやすいように配慮し、季節感を感じて頂ける窓際をくつろげる空間にしています。また、飾りつけも季節に応じて工夫している。	フロアは明るく、温湿度は職員が管理している。入居者はソファに腰掛け新聞を読んだり、テレビを観たりしてゆったりと寛いでいる。コーヒータムには入居者の好きな飲み物が用意され、楽しんでいる。壁には毎月行われるイベントで笑顔いっぱいの写真が楽しかった思い出として残されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの椅子などは少人数で座って頂けるように工夫して、落ち着けるスペース作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様と入居時に相談し、使い慣れた家具や思い出の物を持って来て頂き、安心感を持って頂けるようにしている。	ドアには入居者の写真とホームの住所が記入されている表札が掲げられている。室内は明るくタンス、テレビ、カレンダー、時計等、入居者の馴染みの家具が配置され、手作りの作品や家族団欒の写真が飾られ、その人らしい居室になっている。温度調節は職員が行い、乾燥を防ぐために濡れタオルを置いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	張り紙などで場所確認が出来るようにしている。また、必要な場所には手すりなどを設置している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371100716		
法人名	株式会社フレンズハウス		
事業所名	グループホーム フレンズハウス七番町 2階		
所在地	愛知県名古屋市中区七番町五丁目12番地		
自己評価作成日	平成22年10月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日の生活の中で利用者様に役割を持っていただき、自立支援を目指しております。利用者様との何気ない日々の会話の中からその方々のニーズに添えるよう、介護計画については職員全員で話し合い、支援していくよう心がけております。七番町はデイサービスと併設しているため、季節行事など合同で実施し交流を深めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域とのふれあい、かかわりを大切にして積極的に取り組んでいる。事業所理念を掲示し、朗読して共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加や散歩時の挨拶、フレズニュースの回覧などを行ない交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に施設訪問などして頂き、理解を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、町内の民生委員の方に参加して頂き、地域の行事案内・地域の方の相談・ホームの状況報告などを行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	港区事業者連絡会に入会して、担当者と話し合う機会を設けている。また、区役所の保護係との連絡をとり、状況説明をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加し、またマニュアルに従い職員は身体拘束を行わないよう理解しているが、職員がいらないのを確認し、玄関より出て行かれる入居者様がみえる為、安全確保のため玄関を施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者および職員全員が高齢者虐待防止関連法を学び理解し、事業所内にて虐待行為が見過ごされないようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の中にも利用されている方がみえるので、その都度説明をし、理解・活用の支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の内容は契約時に全て読み上げ、疑問点などはその場で説明させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様は直接、訪問時、電話などで管理者や職員に意見・要望を伝えられることが多い。 法人としては、年1回家族会を開催しているが、今回は予定した時期に、体調を崩すされる方が多く開催出来ていない。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回、人事考課及び面談を行い、法人・管理者に対して提案などを訴える機会を設け、反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス規程により、職員が今後の目標をもって、また向上心をもって勤めることができるよう定めている。また36協定を締結し、なるべく残業をしないよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時、日中16時間・夜勤8時間の現場研修を行なっている。また、年2回自己評価の機会を設け、レベルアップにつなげている。外部研修にも交代で参加し、研修で得た情報を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に一度の事業者会の会合に参加し情報交換・交流を行ない、向上を目指している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談やアセスメントをしっかりと行ない、困っていることや不安に思っていることなどを聞き取り話し合い、信頼関係を築いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の声をしっかり受け止め、その場で話し合い、要望などは現場にも報告し、取り入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様の要望はケアプランにも取り入れ、改善に向け相談し連携をとり、信頼関係につなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の得意分野は色々と教えて頂きながら、利用者と職員が助け合って生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の訪問時には情報交換をするなどして、ご家族様と共に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様がずっと通っていた美容院や喫茶店などがある場合は、ご家族様に協力して頂くなどして継続的な交流を支援し、馴染みの場所・人との関係が途切れないように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ティータイム・散歩など、共に楽しく過ごす時間を増やし、関わり合いを深めるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新しく変わられた施設との連携を持ち、今までの生活が出来る限り持続できるように相談や必要に応じた情報提供を行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様一人ひとりの意向を聞き、それに近づけるように努力している。困難な時は、ご家族様の意見を聞くなどしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族様よりバックグラウンドの提出をお願いして、生活歴を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの1日の様子などを記録し残している。また、申し送りなどで職員全員が現状を把握出来るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状と介護計画にズレがないように、モニタリングやカンファレンスを行ない変化に応じて変更している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルの記録・水分摂取量や排泄など、身体の状態は勤務の前に確認し、把握・共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様のニーズに対してその都度の対応を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員の方と意見交換・情報共有している。 また、地域のお店などを利用して地域に溶け込めるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望があれば、かかりつけ医を主治医として頂いている。協力医療機関以外の受診は基本的にご家族様に行なって頂いている。 受診時の情報などは、ご家族様より報告を受け、協力医に報告し、情報の共有とご利用者様の健康状態の把握に努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、訪問看護師がみえ、情報共有・連携をしている。 往診の医師とのとの連携も出来ている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医師・看護師と情報を共有し対応可能な段階で退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様と話し合い、意向にそえるように医師と連携をとり、指導の上、可能な限り支援出来るように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜勤時の緊急対応については、会社のマニュアルを整備し、対応出来るように努めている。管理者が到着するまでの対応は勉強済み。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回、夜間帯を想定した訓練を含めて避難訓練を行なっている。5月には、港消防署、地域の方にも参加して頂き、指導を受けながら訓練をおこなった。非常用食料品などは、定期的に期限を確認し保管している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様一人ひとりの気持ちを大切に考え、さりげないケアを心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	必ず意志を確認し、職員の押し付け行為にならないよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物・屋上での洗濯物の取り込みなど、個別対応を増やしその人らしい生活をして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度、訪問理容を利用し、常に清潔を心がけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け・配膳・片付けなどを職員と共に行ない、楽しい食事になるように努めている。 買い物も一緒に行き、食べたい物を聞き・購入するなど、意欲を高めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック・食事チェックなど個別に把握し、職員が共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけ・見守りを行ない、自分で出来る所まではしっかり行なって頂き、出来ない所は職員が行なうようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表などを使用し、個々の排尿感覚に合わせて声かけ・トイレ誘導し、自立に向けて支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い野菜を毎日多く摂取して頂けるように提供している。 ティータイムには牛乳を飲んで頂くなど水分補給も心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に応じて入浴して頂けるように順番をずらすなどして、入浴日を増やせるよう工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はレクリエーション・会話・散歩など取り入れ、活動的に過ごして頂き生活リズムを整えている。その他は自由に休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に服薬ファイルを作成・整理し、内容を把握し、医師・看護師・薬局との連携を図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの好きなことをなるべく活かせるように役割を増やし、生きがいを持って頂けるように配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出などの行事計画を立て、出かける機会を増やすよう心がけている。ご家族様にもご協力いただき、希望に添えるよう努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は、事務所にて、管理しているが、入居者様のご希望により、おこずかい程度の現金を、自己管理できる方のみ持って頂いている。(ご家族様の了解済み)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には事務所の電話を使用して頂いている。また、年末には一人ひとり年賀状の作成を行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は皆様が使いやすいように配慮し、季節感を感じて頂ける窓際をくつろげる空間にしています。また、飾りつけも季節に応じて工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの椅子などは少人数で座って頂けるように工夫して、落ち着けるスペース作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様と入居時に相談し、使い慣れた家具や思い出の物を持って来て頂き、安心感を持って頂けるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	張り紙などで場所確認が出来るようにしている。また、必要な場所には手すりなどを設置している。		

(別紙4(2))

事業所名: フレンズハウス七番町

目標達成計画

作成日: 平成24年4月18日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成 に要する期 間
1	10	ご家族様の意見、要望など反映させる機会を充実させる。	ご家族様との連携を、充実させより良い介護を目指す。	ご家族様に、施設行事などに出席をお願いし、その機会に交流を図り、ご意見、要望などを伺い、改善に向けた業務を目指す。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月
6					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。